

第2回3月11日知事メッセージ起草委員会 主な意見

日時 平成31年1月28日(月) 10:40～11:40
場所 第一特別委員会室(本庁舎2階)
出席者 委員長: 知事
委員: 鞍田炎、佐々木孝司、本多環、横田純子(50音順)
事務局 企画調整部 櫻井部長
企画調整課 吉田課長、佐藤主幹、渡邊主任、佐久間副主査、岩渕副主査

1 全体的な趣旨等について

- ・今困っているけど頑張ろうとしている子たちに届くようなメッセージにしたい。
- ・福島に対して正しい認識ができない人たちに伝わるメッセージにしたい。
- ・子どものことや、私たち大人が子どもたちを見守り続けるという趣旨を取り入れたい。
- ・「風化」がキーワード。まだ福島は大変なところもあるから、もっと福島に目を向けて手伝ってほしい、というメッセージも必要では。
- ・矛盾する風評と風化の問題や今の福島の置かれた状況を、どのように伝えていくかが難しい。
- ・まとまったきれいな文章も大事だが、苦しみも抱えつつ頑張っていますというメッセージの方が心に響くのでは。
- ・我々がいま抱えている問題は、東日本大震災以降に大災害が起きた地域でも当てはまることであり、普遍性がある。
- ・県外の方が普段は風化して忘れてしまうのは仕方ないが、3.11に福島を思い出してもらおうことを考えると、良い面ばかりを伝えてはいけないと思う。
- ・県民、福島を応援してくれる人、風評を気にする人、全員に届くメッセージにしたい。

2 本文の内容について

- ・より伝わる、読んでもらえるメッセージとするために、入りと締め表現を工夫すべき。
- ・文章の構成は、いまだ苦しんでいることもあるがこれから前向きに頑張るという流れにした方が、困り続けている人には伝わるのでは。
- ・避難者数の推移が分かるように記載した方が良いのでは。
- ・サッカーや駅伝をはじめとする、若者のめざましい活躍や思いが伝えられると良い。
- ・廃炉作業が一步步前進しているので、そういったところをアピールしてはいかがか。
- ・今年の新成人には、震災当時小学校の卒業式が出来ず成人式に合わせて卒業証書を受け取った子もいる。そういった意味でも節目の年と言えるのでは。
- ・平成が終わり新しい時代が来ても、私たちの挑戦は続くというようなメッセージにしてほしい。

- ・ 県民、福島を応援してくれる人、風評を気にする人、全員に届くメッセージにしたい。[再掲]

3 県民等の声について

- ・ 実体験している方の言葉を取り上げてほしい。
- ・ 共働の広がりという意味で、外部からの共感の声を取り入れると効果的では。
- ・ 復興の響きを感じられるような、前向きなものがあると良いのでは。
- ・ サッカーや駅伝をはじめとする、若者のめざましい活躍や思いが伝えられると良い。[再掲]
- ・ 子どもたち、若者の声を取り入れてほしい。